

旧町内のまちづくりルールを見直しています!

まちづくりかわら版 No.15

昨年度、伊豆縦貫自動車道をキッカケにまちづくりを考えよう!と、まちづくりの指針である「都市計画マスタープラン」を策定致しました。

今年度は、昨年策定しましたマスタープランの方針に合うようにするため、未整備となっている旧町内の道路拡幅計画の見直しを主眼に置き、まちづくりのルールづくりに取り組み始めました。

※まちづくりルールとは、建物の建て方、道路などのあり方のことです。

地域の方と一緒に、検討を進めています!!

現在、旧町内の住民の方との話し合いを行ないながら、「歴史等を活かした、歩いて楽しいまち」「安心して暮らせるまち」を目指し、まちづくりルールの検討を行っています。

●第1、2回検討会では...



旧町内のまちづくりルール、建物の建て方や現在の道路計画について、勉強しました。

ダンボール模型を使ったり、クイズを行いながら、みんなで確認しました。

●第3回検討会では...



“まち歩き”を実施し、将来の街並みを意識しながら、建物の大きさや道路の歩きやすさなどを確認しました。新たな発見もありました!!



検討は、旧町内9区の代表や商店会代表、まちづくり活動団体代表21人で組織する「検討会」で6月から行っています。
※検討会の前に、旧町内のみなさんへの説明会を開催しました。



9月~10月にかけては、地区説明会を開催し、現在の進み具合、まちへの思い等について意見交換しました。
(6会場98名参加)

●第4回検討会では...



将来の街並みについて話し合いました。
「商店街の1階はお店にした方が...」「看板はある程度統一を」といった意見が...

●第5回検討会では...



賀茂地域防災局のご協力のもと、予想される東海地震の発生を想定した図上訓練を行いました。みなさん真剣に行なっていました。

●地区説明会では...



「旧町内に広い道路や高い建物はいらない」「ある程度の高さは必要では」など、各会場とも活発に様々な視点からのご意見を頂きました。

「検討会」では、旧町内を対象に、災害時における避難路(道路)の指定、公園などの配置、建物の建て方に関する、大きさなどのまちづくりについてのルールを検討しています。その中で、地区計画という手法を使った、建物の建て方及び道路などの指定をするルールづくりを提案したいと考えています。

今後みなさんと意見交換をしながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

※下田旧町内まちづくりルール検討会は、オブザーバーとしてメンバー以外の方もご参加できます。

問合せ先▶建設課伊豆縦貫道係 TEL 22-2219 E-mail:kensetsu@city.shimoda.shizuoka.jp

下田市内の指定文化財その⑬

下田市指定史跡

金山古代製鉄遺跡

所在地 大賀茂

指定日昭和51年5月27日

金山遺跡は大賀茂川を東に望むゆるやかな斜面にあり、現在は畑や果樹園などになっています。漢字で金山と書きますが、金が採れたわけではなく、発掘調査によって平安時代に営まれた製鉄遺跡であることが判明しています。



金山古代製鉄遺跡

古代の製鉄 製鉄とは鉄原料を精錬して鉄材を作る作業のことをいいます。当時の人々は風通しの良い乾燥した場所に製鉄炉を作り、採取した砂鉄などの鉄

原料を木炭とともに炉に入れ、鞆によって酸素を送りながら高温で溶かし鉄の塊を得ていました。製鉄作業は高度な知識と技術を必要とし、武器の製造にもつながることから、その生産には国や地方の有力者が深く関わっていたと考えられています。



古代の製鉄作業(道の駅開国下田展示)

金山遺跡発掘調査 下田市教育委員会によって過去4回の発掘調査が実施されています。製鉄炉本体の跡はみつかりませんが、多数の炉のかけらや、粘土製の鞆の羽口(炉への接続部分)、炭焼きを行ったと見られる小型の窯、製鉄作業の不純物(カナクソ)を捨てた廃滓場

などが見つかりました。



金山遺跡出土の炉壁片・鞆羽口

南伊豆地方の製鉄遺跡

製鉄遺跡は静岡県内でも特に南伊豆地方に集中しており、古代における同地方の大きな特徴の一つとされています。現在までに13ヶ所の製鉄関連遺跡が見つかっており、金山遺跡だけでなく、白浜のタラド遺跡や田牛金草原遺跡などのように鉄を連想させる地名とともに今日まで残っている例も少なくありません。しかし多くの遺跡は未調査か部分的な調査が実施されているのみで、未だに実態が明らかになっていないのが現状です。金山遺跡はその中であって規模が大きく、発掘調査によって内容が明らかになっていることから、南伊豆地方の代表的な製鉄遺跡として下田市の史跡に指定されています。アクセス 下田駅より大賀茂方面バス 金山バス停下車徒歩3分 問合せ先 教育委員会生涯学習課 ☎25055

樹のまち vol.60

過日の新聞に掲載されていた記事です。米國ペンシルバニア州の学校にトラック運転手が侵入、5人の女児が銃で殺害された事件です。犠牲となったキリスト教の一派「アーミッシュ」の子どもや、その親たちの自己犠牲的で無抵抗な姿が浮き彫りとなり、全米に静かな感動を呼んでいるというものでした。アーミッシュは戦争を拒否する絶対平和主義のキリスト教の人々で偶像や権威を認めないため、ヨーロッパで迫害されルイ14世に追放されて、フランス東部の再洗礼派が米國に渡ったといわれており、現在も米國內に約15万人が独自の村をつくって生活しています。電気、自動車など現代文明を拒み、百年前の生活そのままに黒い服を身にまとい馬車で移動しています。この様子は私も、ハリソン・フォード主演の映画で見た記憶があります。事件はペンシルバニア州にあるアーミッシュの学校で起きました。アーミッシュは外部の人をイングリッシュシャー(英語を話す人)と呼びますが、イングリッシュシャーの米國人運転手が侵入し

13歳から7歳までの女児5人を監禁し、射殺したうえ、自殺したものです。その後、警察の調べで詳細が明らかになりました。死亡した女児のうち最年長のマリアちゃん(13)は犯人に「私から撃つて」と申し出て年下の子たちをかばい、妹のパービーちゃん(11)も「その次は私を」と進み出たといわれています。結局は全員が情容赦なく射殺されたのですが、こうした「自己犠牲」のあり方に、まず驚嘆の声が上がりました。また遺族が事件の夜、犯人宅を訪れて犯人の家族に「許し」を伝えたことで、米メディアは「慈悲深さ」をクローズアップ。また、謙虚さを失わないために「他人より優れている」と思うことさえ否定するという現代人が失った「高潔さ」に注目しました。

下田市長 石井直樹

